

文部省社會教育局編

話法と朗讀法

東京
大阪
東洋圖書株式會社發行

序 文

音聲を以て自分の思想感情を自由に表現し自在に傳達し得る事は、現代の社會生活に於ては最も主要なる事柄である。

然るに我國に於ては、從來一般社會に於ては勿論、學校教育に於ても、音聲を以て思想感情をより良く表現し傳達せんとする話法の研究については、動、ともすれば等閑視された感がある。況んや文章の朗讀法其の宜しきを得て遺憾なく感興に浸り、充分に其の内容を味ひ、且傳へんとする効果的方法に至つては、最近までは殆ど不問に附せられてゐたと言つても過言ではない。

本省に於ては、かゝる觀點に立つて社會教育の立場より此の話法及び朗讀法に深甚の注意を拂ひ、現代我が國に於ける斯界の權威者を講師として之が講習會を開催したのであるが、其の講義の内容を廣く一般に傳へる事は右講習會開催の趣意を延長徹底せしめる所以であると考へ、特に各講師にその内容の訂正増補を請ひ、順序を整へ、首尾一貫したる一本となして公刊するに至つた次第である。

本書が、我が國に於ける話法及び朗讀法の研究並に之が進歩促進の上に、聊かなりとも參考となるならば幸である。

昭和十年七月十六日

文部省社會教育局

話法と朗讀法 目次

【序 篇】

社會教育の重要性 文部省社會教育局
成人教育課長兼庶務課長 松尾長造 二

一 序論 二

二 分量觀の重要性 五

(一) 學校教育と社會教育との關係 五

(二) 小學校卒業生の教育 五

三 目的觀の重要性 二

(一) 社會教育の目的 二

(二) 人間の本質 二

(三) 人生の目的 二

(四) 社會教育は立派な日本人を仕上げるにあり 二

四 内容觀の重要性 三

(一) 身體的方面 三

(二) 智的方面 三

(三) 感情的方面 三

(四) 意志的方面 三

(五) 人間の社會的存在

五 結論……………三〇

【話 法 篇】

話術の教化的使命……………文部參與官 山 榊 儀 重……………三六

一 説得する力……………三六

二 印象を残す心掛……………四〇

三 話し方の形式……………四四

四 ゼスチユアの問題……………五〇

五 聲 の 問 題……………五五

六 演説・講演の準備……………六〇

七 演説會講演會の注意……………六五

八 彌次の問題……………七〇

九 心の持ち方が大切……………七五

成人と話すには(大衆と話のこつ)……………高 島 米 峯……………七五

- 一 演壇に立つて言譯するな
- 二 話せばわかる時代
- 三 話さなくともわかる世界
- 四 國語尊重
- 五 不完全なる國語
- 六 大衆といふ言葉
- 七 成人とは何ぞや
- 八 教育を必要とする成人
- 九 一つ穴の狐
- 一〇 冒頭の一旬
- 一一 圓朝の語り出し
- 一二 山室南條兩氏の語り出し
- 一三 話の目的
- 一四 話術と宗教
- 一五 ゼスチユア
- 一六 逆手
- 一七 引用語を忘れた時
- 一八 あと十分延長といふ時
- 一九 修辭について
- 二〇 術語の讀みくせ

青年指導と雄辯

加藤 咄堂……………二五

一 青年指導の根本……………二五

- (一) 學 識
- (二) 見 識
- (三) 常 識

二 同じ思想で上手下手があるはどういふ譯か——材料の問題……………三〇

目 次

- (一) 明 喩
- (二) 偶 喩
- (三) 引 喩

三 同じ材料でどうして上手下手の區別があるか——組立の問題……………一六

- (一) 論理的の組立
- (二) 修辭的の組立

四 同じ組立であるにどうして上手下手の區別があるか——言語の問題……………一四

- (一) 現代的の言葉
- (二) 國民的の言葉
- (三) 普遍的であること
- (四) 青年の喜ぶ言葉

五 音聲の問題……………一五

六 實際演説上の注意……………一五

兒童生活と童話…………… 早蕨幼稚園長 久留島武彦……………一五

一 童話に對する根本的の誤解……………一五

二 小波先生會心の話……………一六

三 話に興味を持つ理由……………一六

- (一) 疑の解決
- (二) 満足感

四 子供の發育によつての五段階……………一八

(一)	幼稚園から第一まで	(二)	尋二、三時代	一九七
(三)	尋三、四時代	(四)	尋五、六時代	
(五)	尋六、高一、二時代			
五	聴かせる工夫			

(一) 心
 (二) 言 葉
 (三) 座席の取扱方

幼 児 の お 噺 東洋家政女學校長 岸 邊 福 雄 二四

一	桃太郎の噺	二四
二	童話研究の段階	三三
三	詩から童話を作る	三六
四	繪噺の作り方と其の例	三三
五	ラヂオのお話	三三

話 術 の 變 遷 岡 鬼 太 郎 二四

一	講釋の始まり	二四
---	--------	----

傳承文藝に就て

國學院大學教授
文學博士

折口信夫……………二六

二	落語の變遷……………	二四
三	寄席……………	二五〇
四	話し振りのいろいろ……………	二五一
五	圓朝のこと……………	二五四
六	場所の廣さ、聽手の種類など……………	二五五
七	標準語、都會語、東京語……………	二五七
一	傳承文藝の意味……………	二六二
二	傳承文藝の主體……………	二六三
	(一) 古代人の詞……………	
	(二) 神々のとなへごと……………	
	(三) 叙事詩……………	
	(四) かたるといふ語……………	
三	傳承文藝の保持……………	二七三
四	傳承文藝の變遷……………	二七九
	(一) 唱へ言と謠と歌……………	
	(二) 落し囃の例……………	

- (三) 誦語—こじつけ物語
- (五) 落語の中の下わか
- (七) 江戸時代の傳承文藝
- (四) 狂歌など
- (六) 繪解きより講釋へ

【朗讀篇】

朗讀法の要領 東京高等師範學校教授 日下部 重太郎 三〇三

- 一 國語の本質、話術と朗讀 三〇三
- 二 朗讀法とは何か 三〇七
- 三 朗讀の練習、先づ發音法 三〇八
- 四 表出法、句讀と重念と昇降と調音 三一
- 五 國語の音韻組織と思想感情 三五
- 六 口語體と文語體との朗讀、國語の發達のため 三九
- 一 朗讀法の必要 三三

朗讀の精神 御歌所寄人 武島 又次郎 三三

二 朗讀法の精神……………	三三
三 朗讀の四つの條件……………	三五
四 歌の朗讀……………	三六
朗讀と呼吸法……………	三三
早稻田大學講師 河竹繁俊……………	三三
一 聲の鍛錬……………	三四
二 三つの呼吸法……………	三五
三 表現法の基礎的原則……………	三六

序 篇

